



令和3年度総会・懇親会報告

令和4年5月21日(土)午後1時から川崎日航ホテル12階「鳳凰の間」で令和3年度社友会定時総会並びに懇親会が開催されました。

当日は午前中、後述する希望者による会社総合事務所見学会も開催されました。

令和2年、令和3年とコロナ感染症の蔓延により自粛してきた2年半ぶりの総会・懇親会に会員42名、会社からは原田社長、戸取取締役、および事務所見学の案内をしてくださった江口人事総務部長、古山係長、佐藤課員のご出席をいただき、総勢47名でした。

定時総会は、まず大西会長が挨拶と事業報告をしました。



会長は冒頭のあいさつで、コロナ禍の中、総会開催に至った判断として、政府のまん延防止等重点措置が解除されたこと。また、感染者数の減少が進んではいくものの高止まり傾向が続いており、ゼロコロナの先行きは不透明であるが、ウィズコロナの時代になると言われている状況であることを前提に、社友会としてはコロナとの共生を視野に、ニューノーマル(新しい生活様式)を順守徹底することで社友会活動を少しずつコロナ前の状況に戻していくという目標を立てたこと。そして、出席される会員は3回のコロナワクチンを接種している制限を設けることにより、集団免疫状態を確保し、会場の日航ホテルは感染防止対策を徹底することにより、かなりの感染リスクの低減が期待できると判断し、総会を開催することにしたとの説明があった。

本題の事業報告では、コロナ感染症の蔓延で満足な活動ができない状況のなかで、

- ① 事務局会、幹事会はZoomを活用し、リモート会議で精力的に活動し、会員への情報伝達を行ったこと。
- ② 2019年の総会時、報告された無料ホームページ(HP)サービスの終了に伴い、新たなHPの作成のため、HP作成委員会を立ち上げ、2020年8月にホームページをリニューアル公開し、サービス提供会社として Wix.com を採用したこと。
- ③ 広報活動として会報「たより34号、35号」の発行と、新ホームページを毎月更新しネット環境を活用しての会員の皆さまとの情報共有につとめていること。
- ④ 会員の現状では2020年以降、新会員は11名、お亡くなりになられた方10名で、2019年末より1名増加の194名となり、長寿のお祝いは米寿の方が5名、喜寿の方が11名であること。
- ⑤ コスト削減の取り組みとして会報「たより」の発行について発注先をネット印刷会社に変更し、従来の費用の50%の削減を達成したことが報告されました。

また、本年度の活動は徐々にコロナ前の活動に戻していく目標ですが、感染症のまん延状況によってはその判断を臨機応変に変更し、社友会活動を行っていくことについての理解と支援の要請がなされました。

最後に次年度の社友会総会・懇親会は2023年5月20日(土)の開催予定であることが報告されました。

原田社長のご挨拶



ご来賓の原田社長からは総会開催のお祝いのほか会社の状況について2021年度決算、年金の運用状況、トピックスについて、お話がありました。

- ① 2021年度も新型コロナウイルス感染症の猛威により、社内で罹患者が複数発症したり、石油需要の減少で操業への影響が懸念される厳しい状況や原油価格の大幅な上昇により、石油事業は第3四半期にかけては厳しい状況で推移したが、第4四半期にエネルギー価格の上昇に伴い、石油製品と原油・原料油の価格差が拡大し、結果、原油・原料油の処理は406万kl(前期比4.1%増)となり、売上高は223億円(前期比2.3%減)、営業利益は10億円(前期比29.6%減)となりました。
- ② 電気事業については年間を通して発電設備は概ね安定的な操業を行い、昨年と同様、冬場の電力価格高騰により、電力市場価格と発電用燃料コストの差が想定と比較して拡大しました。
取引電力量は1,459GWh(前期比15.1%増)、売上高55億円(前期比10.1%減)、営業利益は18億円(前期比53.5%増)となりました。

以上の結果、2021年度の業績は売上高267億円(前期比6.2%減)、営業利益29億円(前期比7.2%増)、当期純利益21億円(前期比8.5%増)となりました。

③ 企業年金は2012年後半以降のいわゆる「アベノミクス」による株式運用好転により、10億円程度の剰余金を確保しました。その後、2017年に“従業員の老後資金である年金資産を安定的に運用することを一義とし、運用環境に機動的に対応した資産構成としていくことで、長期にわたり安定的に制度が継続できるよう運営しており、直近の年金決算期(2021年8月末)においては、積み立てなければならない額(責任準備金)約19億円に対して年金資産が24億円程度と剰余金を5億円程度保有しており健全な財政状況を継続していることを報告されました。

④ 先日報道された製品試験の不適切行為について、今後所轄官庁の指導の下、社内で特別調査委員会を立ち上げ、早急に再発防止策をまとめ関係の皆さまへの信頼回復につとめることを報告されました。その後、会社からのお祝い金の贈呈がありました。

油社友会総会・懇親会



会総会・懇親会



乾杯の発声(岡田さん)

懇親会は新会員の岡田智典さんの「乾杯」の発声で始まりました。

2年半ぶりの懇親会はテーブルをアクリル板で仕切られ、1テーブル5名(例年10名)に制限し、個別配膳で黙食を心掛け、会話をするときは、マスクを着用するという不自由な懇親会でありました。出席者には新会員の岡田さん、淡島さん、手島さんをはじめ、初参加の黒さん、松井さん、10数年ぶりの上坂さんや数年ぶりの原田(修)さん、大掛さんと懐かしい顔を拝見しました。マスクの着用も久しぶりの会話に夢中になるにつれ、「あごマスク」や「鼻だしマスク」が散見されるようになりましたが、お互いに声を掛け合い注意しあい、正しい着用に戻しました。

ガス化脱硫装置建設時の苦労話や懐かしい昔話に花を咲かせ、興奮気味に会話を楽しんでおられました。会も佳境になり、新会員の岡田、淡島、手島3氏の自己紹介、諫早新幹事の挨拶が披露され、2年半ぶりの懇親会は予定時間を30分超過し、昨年米寿を迎えられた小島さんの「社友会のメンバーは現役時代の上下関係にこだわらずラグビーのノーサイドの精神で」という締め言葉で滞りなくお開きになりました。



元気いっぱい懇親ピース



締めの挨拶(小島さん)



会場風景



新会員淡島さん



左から綾部さん、今井さん、中村さん



新会員手島さん

総合事務所見学会

社友会総会当日の午前中、東亜石油のお取り計らいで2020年9月に完成した新社屋(総合事務所)を内覧する機会を設けていただいた。33名の会員が見学を希望され、朝10時、会社が手配してくれた大型バスに乗り込み、会社到着。玄関ロビーで江口部長からご挨拶と巡回ルート(今回はオフィスファアを除く、会議室、食堂、売店と6階のアカデミーフロア兼ラウンジを巡りました。)の説明があり、3グループに分かれ、10時30分から約1時間内覧しました。新社屋については「社報 FACE2020年秋号」で詳しく紹介されているので省略致しますが、1階の会議室はAV設備が完備され、壁の一角が白板になっており、近代化されています。1階のホールは3部屋に仕切ることができ、仕切りを収納すると約120名が着席できるそうです。(4月にドイツの首相が脱水素設備を視察に来所されたそうです。その際には立席形式でしたが、150名の方が入室されました。)内覧後、製油所内をバスツアーし、車窓から懐かしい製油所設備を見学し、総会会場の日航ホテルに向かいました。



ラウンジからは
工場が見渡せます

会員のいまここ

東亜石油10年、共同石油20年、年金生活者30年 小島 昌義さん



大西会長から会報「たより」のコラム「会員のいまここ」への寄稿の依頼がありました。私も送られて来る会報には目を通してありますが、会報に登場される社友の皆様方とは縁が遠く、私が会報に登場しても皆様方のお目に留まるか、という不安もありましたが、昭和31年東亜石油に入社、今年の11月で89歳の一寸変わった経歴、そして経験をご披露させていただきます。ただし高齢者、認知症が近付いておりますので、記憶にはかなり不安がありますことをお含みおください。

昭和31年4月2日の東亜石油の入社式(31年4月1日は日曜日でした。)前日の雪が残り雨靴(レインシューズ)で大手町永楽ビルの7階永楽ホールに高卒20名、大卒14名が参集しました。関西入社者2名が少し遅れて入社しておりますので31年組は16名となります。現在存命者9名、生存率は57%、生命力があり、シブトク喰らいつく、たくましい年代であります。私はこの入社式から東亜石油で10年、昭和40年に共同石油に移り、約20年を共同石油と関連する子会社に勤務、そして30年を年金生活し今日に至っております。

10年東亜、20年共石、30年年金という節目ですが、社会人生活対年金生活が50対50というところですよ。

(東亜石油時代1) 今でも覚えているのが入社式での近藤光正社長の言葉です。「諸君は昨日まで月謝を払い知識、技術を教わって来た。ところが明日からこの東亜石油で給料を貰い仕事を教えて貰う。私としては君たちから当分の間月謝を貰いたいと思う。」この言葉は一寸ガツンと来た憶えがあります。会社は昭和30年に川崎に製油所を建設稼働し日本石油の特約店から、精製元売へ飛躍、31年は元売り体制作りで16名もの大卒者の採用が必要で在ったと思います。(当時天下の三菱商事でも大卒60名でした。私も採用試験を受験しましたが見事落選。)近藤社長の話とは別に会社が我々に期待している様子を感じ頑張ろうと16名の仲間意識は十分でした。しかしそれにしても給与の安い会社でした。入社後6ヶ月までは仮採用で社会保険料などを差し引かれると5千円の手取りと言う水準。7月に賞与は酒肴料で500円、この500円も社長室で一人一人社長から頂きました。新入社員研修も座学が一週間、得意先の工場見学、給油所実習が一週間、1か月後に本社東京支店を中心に配属先が発表即赴任でした。

(東亜石油時代2) 私の配属先は総務部株式課、同期の白井功さんとの2名。当時株式課は本社事務所でなく、日本橋室町の東京証券取引所ビルの一室で課長代理以下新入社員の白井さん私を加えて男子社員6名、女子社員3名、10名の課でした。私が東亜石油入社して驚いたことは、社内規則、業務規則が無い事でした。就業規則もありませんでした。先輩の背中を見て動くというのが東亜石油の業務ルールと感じました。株式課の業務は株券の名義書換業務、総会案内状の発送、株主名簿の管理が主な業務です。株式課への配属は4月の終わり、総会案内状の発送の時期でしたが、5月末の株主総会が終わり6月に名義書換業務が始まり、そこで私がぶち当たったのが、株主名簿の順序が「いろは唄順」であることでした。「伊藤、石原」が最初「鈴木、菅原」がお終いです。今では「いろは唄順」を知っている人は殆ど無いと思いますが、戦中派の私は「いろは唄順」が辛うじて記憶にあり、最初は余り気にしては居りませんでした。6月を過ぎると株式名義書換の業務が増えると共に「いろは唄順」は 仕事の効率に著しい障害と、単純な仕事で何かスッキリ進まないことでイライラが募り、猪突猛進、オッチョコチョイ、常に何かに挑戦的な私の性格が「いろは唄順」の株主名簿の順列を「あいうえお順」に転換することに奮進するところになりました。「名簿の順序はあいうえお順にします」と課長代理に宣言、7月の土日の夜半まで頑張って「いろは唄順」の名簿を「あいうえお順」の名簿に置き換えました。先輩方はどう見ていたか記憶にありませんが私は作業が楽になったと大満足でした。昭和32年10月、会社は名義書換の業務を証券代行と信託銀行に移行、株式課の業務を縮小し、私は業務部業務課に異動となりました。「いろは唄順」から「あいうえお順」への移行は名義書換業務の社外移行とわたくしの異動でジ・エンドです。私は業務部業務課に異動して6年目に業務部輸入課に異動、東亜石油入社9年4ヶ月で共同石油に出向し、のち移籍になり東亜石油退社となりました。

(共同石油時代1) 共同石油は昭和40年8月10日設立。設立要員として88名が出資三社から共同石油に出向しました。東亜石油から私を含め18名が出向しました。その後は昭和41年1月に配油集約要員として228名が出向し、更に41年7月1日に販売集約要員として1,010名が出向し、共同石油は社員1,326名で新しい元売りとして発足しました。共同石油での私の仕事は精製三社との仕切価格を決める事、三社からの製品引き取り数量を決める事、この仕事は昭和55年7月までの13年間続きました。精製三社の社長は出向社員が移籍するに当たって、共石の発展は日本鉱業の発展、アジア石油の発展、東亜石油の発展である。移籍社員は共石の為に働け、と送り出してくれましたが、必ずしもその言葉通りであったか判りません。確かに営業販売部門、配油運輸部門で働く人達は、共石の発展は、精製三社の発展に繋がっているとの思いはありました。私の所属する仕入部の仕事は、共石の発展方向に進めば精製三社の利益と言う方向に繋がらず、阻害しているとの発言を屢々受けました。販売量の増加は精製三社の稼働率の向上に繋がりますが、この増加分を三社が納得する配分ルールを作るのが仕入部の仕事です。13年間悩みながらの毎日でした。ある時は横になり、ある時は後ろ向きに、の動きに「勝手にしやがれ」と言う気持ちでもありました。昭和53年2月、LPガスの輸入業務を仕入部が担当することになり、私の仕事に新たに加わることになりました。東亜石油で輸入課に所属、輸入業務の経験があること、販売集約時に農林水産用免税A重油の輸入業務を担当したことがLPガスの輸入業務を担当することになった要因かもしれません。

(共同石油時代2) LPガス部からの業務引継ぎを兼ねて、早速クエイトへの出張となりました。成田空港は未だ開港せず羽田空港からSAS(スカンジナビア航空)のDC8に乗り、機内で業務引継ぎをしながら南回りで19時間、最初にしては厳しいフライトスケジュールでした。この出張を契機にクエイト、ドバイ、サウジアラビアとの契約に走りまわりました。サウジとはLPガスのDD契約の含みもあり、スポット入札に参加し、その後DD契約には、共石の早猛専務に、猛暑の中サウジアラビアの首都リヤドのペトロミン(石油鉱物資源公社)に足を運んで頂きました。昭和55年4月、共同石油はサウジアラビアと原油150,000B/DのDD契約を締結しました。この契約は当時の共石社長、大堀社長が自らサウジアラビアに出向き契約書にサインしたことから「大堀原油」と名付けられました。私は、凶らずもこの契約の為、大堀社長、早猛専務に随行、ペトロミン(石油鉱物資源公社)との契約書にサインの場に同席させて頂きました。サウジアラビアとの原油DD契約は日本の精製各社が求めているところで、また世界各国もDD契約を求め、戦闘機とのバーター取引や、石油化学プラント建設の見返りなどがあって成約する中、大堀社長の個人的チャンネルで150,000B/DのDD原油契約のサインの場に同席させて頂いたことは、私の20年間の共同石油時代でも印象の強い、また忘れることの出来ない場面でありました。

昭和55年7月、この大堀原油とLPガスの輸入業務を仕入部から移管して輸入部が新設され、部長に私が任命されました。150,000B/Dの契約は、今考えると大変な契約であったと思います。一年間で1バーレル28 \$、為替レート1 \$ 220円(昭和55年)で計算すると3,372億6千万円の取引です。月間300億円、毎日10億円です。

(年金生活時代1) 昭和57年7月の輸入部長から3年後の昭和60年共同石油名古屋支店長に、昭和63年6月末で共同石油を退任しました。引き続き関係子会社の(株)共石エンタープライズの社長を2期4年、(株)京プロの社長を3年、「後進に道を、、、」と言われ平成7年7月に退任し、年金生活に入りました。3年間(株)京プロの社長として京都に単身赴任しており、暫くは東京に戻り、学生時代の仲間(特に高校時代の仲間)と飲み会をしていました。平成7年の11月22日、私の誕生日に近所の自動車教習所に行き運転免許講習を申し込みました。窓口で「取得できますか。」と尋ねたところ{何とかなるでしょう}との返事。毎日通い、時には午前、午後と通い仮免、高速道路講習をこなし、実技試験を一度でパス、小金井試験所で学習試験も一度でパス、平成8年3月27日に運転免許を取得しました。平成8年5月新車を購入(トヨタプリミオ)、10万キロ走行で、(トヨタ・カローラ・ランクス)そして(トヨタ・カローラ・スピード)今は(スバル・インプレッサ)に乗っています。昨年11月に88歳で免許を更新、今回は91歳で免許更新になります。息子から「免許の返上は何時ですか。」と聞かれますが(スバル・インプレッサ)の安全運転の機能は抜群で免許返上の気持ちはありません。

(年金生活時代2) 私は中学生3年から硬式テニスを始めました。テニス部に入りましたが、学校にはコートが無く、同級生の何人かはテニス倶楽部のコートで練習をしていました。高校生になり部活ではなくクラブテニスを続けました。通学途上にある田園倶楽部です。そこそこのテニスで断トツに上手い訳でなくそのまま大学もクラブテニスを続け、クラブはシェル石油大手特約店細山太七商店の細山専務が運営された「光クラブ」にお世話になりました。大学卒業後、即ち東亜石油時代はテニスの時間が無く、会社に厚生施設も無くでしたが、38年ごろからいろいろな部活が公共施設を利用して始まり、テニスの活動に私も参加した記憶があります。共石に移籍後もテニスの時間は無く、昭和47年、自宅の近くにテニスクラブが建設中を知り入会。5月にオープンと共に再びテニスをポチポチ始めました。共石も厚生活動でテニス部が作られて私が部長を務めました。昭和53年6月17日(日)に夕刊フジが主催する職域テニス対抗戦に共石チームが参加、ミックス・ダブルスの3チームでの対抗戦で私も参加、共石は日本鋼管と対戦しましたが0-3で完敗。三日後の夕刊フジに細かな試合結果が掲載されました。その他、業界紙「石油タイムス」主催のオイルメンテニス対抗戦でも共石チームに参加出場しましたが中々勝てません。テニスの技術が我流で育っており、何時もチームのトップにランクされていたからでしょう。共石テニス部の合宿、特約店との親善試合、海外出張でのテニスと色々なところでのテニスで、私は思わぬ出会いがありテニス人生も楽しい思いをさせて頂きました。昭和47年に入会したテニス倶楽部は今年開場50年を迎えました。此の倶楽部の入り口に会員のネームプレートが入会順に張り出されています。今、私は3番目です。

終わりに。何回も書きますが今年の誕生日で89歳、会社生活の30年、それは東亜石油時代、共同石油時代です。この30年で私は非常に多くの方々を支えられて其のお陰で充実した仕事ことができました。年金生活も楽しく暮らせるのは社会人生活で私を支えて頂いた方々が在るからです。厚く御礼申し上げます、尚暫く私の人生にお付き合い頂ければと思います。ありがとうございました。

人とのつながり

芝原 健治さん

こんにちは。1975年入社芝原です。(ボイラー→動力(ボイラー・電気)→インテグ(ボイラー・電気・インテグ)→総務)

はじめましての方がほとんどだと思いますが、今後もよろしくお願ひいたします。先日は社友会総会で新事務所をご案内いただき、関係者の方々には本当に感謝申し上げます。色々な工夫が施され、もう一度出勤したいと思わせる働きやすい素敵な事務所でした。私は、2000年10月に退社したため東亜石油在籍はほんのわずかではありましたが、沢山の方々とは知り合え、このような機会も与えていただき本当にありがとうございます。

☆45歳での転職について

就職のあてもなく無謀(汗)に退社してしまったあと、妻の母からはこの年になって娘を泣かせたら許さないと、叱咤激励(笑)され先輩(川崎製油所動力課汽缶係)からの紹介でプラスチックリサイクルを主に行う廃棄物処理の会社に入社しました。

そこでの配属先は、塩ビ素材の(塩ビパイプ・農業用ビニール等)プラスチックをロータリーキルンで約300℃で蒸し焼き(酸素がない状態)にし、燃焼炉で約1200℃まで加熱し不純物を燃焼させ、燃焼(排)ガスを水槽(冷却缶)を通すことで塩酸分を水に吸収させ、蒸留し35%塩酸を製品とする世界でただ一つの工場のオペレーターでした。この工場で働けることになったのは川崎製油所インテグでの経験があったからだと思っています。その後、各工場を経験し最後は安全衛生室勤務となり、社の安全憲章である「安全は全てにまさる」を北は北海道から南は福山(広島)まで、各地にある工場を社長とパトロールを行い各工場の関係者とともに実践し、各地の名産品・名酒(笑)・友人とも出会いました。

☆身体の変異

あと半年でサラリーマン人生も終わるのかと思ったそんなある日、髪の毛をむしりたくなるような(実際にむしっていた)今までに経験したことがない変異が夕飯時に襲い掛かりました。仕事上、けが等自分で判断出来ないときには「救急車を呼びなさい」と指導していたので、妻に救急車を呼ぶよう伝えました。病院で目を覚ますと、そこは集中治療室でした。自分では何も覚えておらず痛みもさほど感じなかったのですが、病名は、右下動脈りゅう破裂によるクモ膜下出血ということでした。安全衛生室での経験がこんなところで発揮できるとは夢にも思いませんでした。幸い後遺症もなく入院後約一か月で退院することができました。

☆退院後の生活について

一か月の入院でこんなにも体力が落ちるのかと痛感した私は、会社を辞める(2021年6月末)ことを決意し、リハビリのため毎日歩くこととしました。近所には林さんに投稿紹介いただいた和泉川・長屋門公園があり散歩にはもってこいの環境でした

ので徐々に体力も回復してきました。体力が回復するにつれ、趣味である大好きなパチンコ・スロットの郊外にあるホールへ歩いて通うようになりましたが、お小遣いも減る一方で、ふと昔後輩が言った一言を思い出したのが“趣味でお金を使うのは当たり前でしょ！”という名言(迷言)で、変に納得していました。(笑)

体力が回復してくると散歩だけでは時間を持て余すことも多くなり、何かを始めなければと思い、2021年9月シルバー人材センターに登録し、すぐに広報横浜の配布をする仕事をいただき、毎月3～4日ですが働くこととなりました。この仕事は15,000歩/日くらい歩きますのでリハビリを兼ねた一石二鳥の仕事でした。その後、今年4月から法改正となった18歳で青年の啓発となるウェットティッシュの配布等を経験したのち、6月から相鉄線星川駅そばにある公益財団法人横浜市シルバー人材センター保土谷事務所(保土ヶ谷・旭・瀬谷区管轄)で植木のコーディネーターの仕事をしていただき5年間週二日働くこととなりました。この仕事は植木の剪定・除草を行うシルバー会員(55歳から登録可能)とお客様を繋ぐ役割となります。庭の手入れ等を一度も行ったことのない私でしたが、センターから横浜国大で植木職研修を受講させていただき、剪定の目的・時期・木を痛めないための心得を勉強し、今後コーディネーターとして見識を広め活動できればと思っています。横浜市限定ですが庭のお手入れのご要望があれば是非シルバー人材センターへご連絡をお願いします。



スロットの機械でプレミアム画像(めったに見られない)を出し写した写真

☆休日の活用

趣味の麻雀

病気後、町内会幹事の方から毎週木曜日健康促進を目的とした健康マーじゃんにお誘いいただき9時～15時(半チャン4回)に参加しております。多い時には6卓(24名)もの参加者で勝負しております。(楽しい～！麻雀です。)



2022年6月9日役満を上がり表彰されました(筆者 右)



創設4周年を迎えた記念大会での参加者

車庫の掃除

今まで仕事にかまけて行っていなかった家の清掃。ジグソー(刃を変えれば大概のものは切断できます)を購入しいろいろなものを廃棄。これからは仕事を生かし庭の手入れを行う予定です。



旅行

今年1月30日～2月1日にかけて妻の大好きな大阪にあるUSJへ行ってきました。今年7月31日～8月2日には孫と一緒にいきます。



(妻とツーショット)



鬼滅の刃アトラクション



ハリーポッター

☆最後に

昭和石油入社から昭和シェル石油、東亜石油をはじめJ&T環境、町内会、シルバー人材センター、もちろん家族も含め多くの方との出会いにより数々の経験ができたことは人とのつながりがあってこそと思っています。本当にありがとうございます。今後も東亜石油社友会の皆様とさまざまな経験ができることを楽しみにしておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

ご安全に！

「福原澄さんを偲んで」

前田 耕二

昨年11月に亡くなられた福原澄さんは私の5年先輩で、入社以来30年以上公私に亘りご指導いただきました。

重脱装置建設で1974年に試運転部に配属されたとき、フレキシコーカーのシミュレータートレーニングで米国へ試運転グループで出張する機会があり、その中に福原さんは技術指導者として同行されていました。トレーニング中にシミュレーションの内容が分からず悩んでいた時、語学堪能な福原さんがセンターのエンジニアとの間に入ってシミュレーション方法を調整してくださったことを思い出します。

また東亜石油のフレキシコーカーが稼働後、1983年春米国オークランド近郊のシェルマルチネス製油所に建設されたフレキシコーカーのスタートアップ助勢の目的で、福原さんと約3か月間出張したことも深く記憶に残っています。我々はフレキシコーカーの運転でスタートアップ方法が複雑で手順を間違えてしまうと重大なトラブルを引き起こして緊急停止に陥ることを数々経験していました。そこで福原さんが東亜石油のスタートアップ手法(CPS: Critical Path Schedule)を参考にマルチネスのスタートアップ手順書を作成することを製油所長に提案したところ、所長はこの手法(CPS)を快く受け入れてくださいました。福原さんの物怖じしない性格、秀でた説明能力や豊富な語学力に大変感銘を受けたことを今でも覚えています。

我々が作成したCPSに基づきスタートアップが行われ、無事に立ち上がったときの安堵感とスタッフ一同から感謝されたことが今も心に残っていますが、おそらく福原さんも同じ想いであったと思います。



製油所幹部と記念撮影
(プレゼントは木彫りの州の鳥)



フレキシコーカーを背景にエクソンエンジニア
と一緒に記念撮影

スタートアップ前のマルチネス滞在期間中、週末高速鉄道(BART: Bay Area Rapid Transit)を利用して二人でサンフランシスコ観光やオークランドでの野球観戦をする機会がありました。

福原さんは何よりも外国料理が好きで大食漢の方でした。なかでもチャイナタウンでの中華料理、フィッシャーマンズワーフでのイタリア料理は大のお気に入り、その食欲の旺盛には驚くばかりでした。スープはどのレストランに行っても必ずクラムチャウダーをオーダーします。スープの中のハマグリ(アサリかも?)が大好物でいつも満足顔でした。酒は何でも好んで飲んでいましたが特にカクテルが大好きで、バーに行くとBloody MaryやSalty Dogをオーダーし美味しく飲んでいた姿が今も脳裏に浮かんできます。

退職後は社友会でお会いするのが楽しみでしたが、この数年はその機会がありませんでした。聞くところによると体調を崩され長い入院生活を送っていたとのこと、亡くなられたのが大変残念でなりません。

福原さん30数年間東亜石油と一緒に仕事ができたことを心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。

合掌

「伊藤正嘉さんとの思い出」

鈴木 和夫

伊藤正嘉さんの訃報を社友会の連絡メールで知りました。ありえない訃報に接し、ただ驚くばかりでした。それというのも毎年の年賀状のやり取りで、お互いの近況を報告しあっていたので「まさか・・・」という気持ちでした。

2018年では「しばらく体調を崩していましたが、良くなりました。2019年3月に引っ越し予定です」とあり、2020年には「いまはジム通いで汗をかいております。」と順調に回復されている様子が窺われ、良かったなと思っておりました。今年の年賀状では戸塚に転居したとの記述があり、伊藤さんらしく、計画通りに物事が運んでいるものと安心しておりました。

伊藤さんは今年、喜寿を迎える年齢だと思いますが、残念でたまりません。毎年開催される社友会総会・懇親会では伊藤さんと顔を合わせて話をしていましたが、コロナ禍でお会いする機会がなく、ゆっくり話をすることがなく重ねて残念でなりません。

伊藤さんとは、昭和44年4月の同期入社です。同期は47名(含む女性5名)で、これからのビッグプロジェクト(名古屋製油所建設、川崎製油所の大改造工事等)に向けての大量採用でした。同期には1年年長の先輩が4人おり、伊藤さんはそのうちの一人です。入社したときから頼りがいのある兄貴分的な存在の人であったと覚えています。

入社して3週間座学と現場実習での教育を受け、4月21日に常磐ハイアンセンターで研修を終了しました。この教育期間中での伊藤さんの忘れられない思い出は、伊藤さんがポツリと「学生時代は工学関係を履修していたので化学、特に石油のことは一切わからないので研修中は苦労した」と言ったことです。外見は豪放磊落で頼りがいのある存在の方なのに気が優しくてナイーブな面を持つ人であることをつくづく感じました。

(研修終了後、4月23日付けで各課に配属されました。)

伊藤さんとは新宿の実家に遊びに行ったり、鎌倉市玉縄に転居したときには豪邸を内覧させてもらったり、また娘さんが小さかった時に県立こども医療センターに入院したときには、私たち夫婦でお見舞いに行ったこととか、思い出は枚挙に暇はありません。

仕事面に関して言えば、伊藤さんは工事部門一筋でキャリアを積んでこられました。どの職場でも業務に精通し、その部署の代表となる人が必ずいらっしゃいますが、伊藤さんもまさにそのような存在の人でした。工事関係でトラブルが発生した場合、まず伊藤さんに連絡して指示を仰ぐという頼りがいのある相談相手でもありました。

また、印象深いものの一つには、定修期間中に白のつなぎ服を着て、工事部門の責任者として毎朝のラジオ体操に始まり、各種安全パトロールの主導、工事調整会議、翌日の工程会議等忙しく働いていることをよく覚えています。

朝早く出勤し、夜遅くまで働く姿を見てよく体が続くなと思っていたものです。

私が名古屋製油所から川崎製油所に帰任した時期に重なりますが、日本(世界で最初の)で最初に稼働した重質油分解装置(FLG装置)のメンテナンスを担当されておられました。丁度その時期は建設後の初期トラブルに見舞われ、その解決に大変な苦労をされていることを聞かされました。仕事に対する生真面目で責任感の強いことが遺憾なく発揮され、問題解決に至ったものと感じています。初期トラブル等で経験したことを改良工事に生かすとともに、他国で建設されたFLG装置にも反映されたことを聞きました。

伊藤さんとの思い出はたくさんありますが、コロナ禍の中にあってゆっくり話す機会がなかったことが残念でなりません。今はただご冥福を祈るばかりです。

伊藤さんありがとうございました。

追記

伊藤さんは平成20年11月から社友会工務部門の新任幹事として務められ、平成22年11月の総会で工務部門の副会長に就任されました。

咽喉がんが見つかり手術により声を失うことになり、平成27年11月退任されるまで社友会工務部門のまとめ役として、ご尽力されました。

退任後は社友会の行事とは疎遠になりましたが、ゴルフ好きの仲間同士が集まるプライベートな会には体調と相談しながら電気式人工喉頭を使い不自由な会話ながらも顔を見せておられました。

晩年は心臓病を患い、コロナ禍の中家族との面会も制限される辛い入院生活となり、無念な思いで逝かれたのではないのでしょうか……

謹んでご冥福をお祈りいたします。



在りし日の伊藤さん(同期の柳井田さんと)
平成17年総会後の懇親会にて

投稿記事募集のお願い

会員の皆様へ

東亜石油社友会のホームページは2020年8月1日にリニューアルオープンしました。現在、ホームページの会員登録数も徐々に増加し70名を超え、閲覧回数も1万回を超えました。今後も、なお一層、多くの会員の皆様に閲覧していただけるように、当初の目的である会社・社友会活動の情報提供や会員相互の情報共有記事はもとより、読んで楽しい、見て興味をもてる記事など掲載内容の充実を図っていきたくと思います。

そのために、会員の皆様からの投稿記事を募集いたします。つきましては、皆様の最近の過ごし方(コロナと共存する新しい生活様式)、私の健康維持法、近況、趣味、旅行記、園芸、家庭菜園、ボランティア活動など題材や内容は自由です。堅苦しく考えることはありませんので、是非ご寄稿をお願いいたします。うちのかわいいペットやご近所の美しい、珍しい風景等の写真も歓迎です。

原稿は郵送、Eメールでのデータ(ワード形式)どちらでも結構です。
ご寄稿いただいた場合には粗品をお送りいたします。



伝言板

会員の移動

新会員

白木 郁 さん 令和4年 6月 (神奈川県横浜市在住)

お悔やみ申し上げます

伊藤 正嘉さん 令和4年2月26日(76歳)

(令和4年6月末日現在 会員数 195名)

2022年長寿の祝い

米寿 (1934年誕生) 岩尾 元義(9月26日)

喜寿 (1945年誕生) 飯森 俊樹(11月18日)、 鳥海 善彦(12月13日) (敬称略)

新役員の紹介

諫早 昭三さん

社友会の皆様、大変ご無沙汰しています。この度社友会幹事を務めさせていただきましたことにになりました諫早です。

平成28年8月の退職(嘱託満了)から早くも8年近くが過ぎ去っておりますが、私は社会人第二の人生として、マンシヨン管理人を務めており、今日に至っております。東亜石油在職中の記憶も薄れつつある今日この頃ですが、同期の斎藤健司さんから幹事のお誘いがあり、あまり深く考えもせず、軽い気持ちで引き受けてしまった次第であります。一応、身体が許す限り今の仕事を続けていこうと思っておりますので、幹事としては本当に微力になると思いますが、お手伝いができればと思っております。

現在は騒然とした世情であり、時代がどんどん移り変わっていきますが、東亜石油社友会は末永く継続、発展してほしいと願っております。



熱海城天守にて

編集後記



五月二十一日の総合事務所見学会と二年半ぶりの総会・懇親会を無事終えることができ、その後、参加者からのコロナ発症の連絡もなく一安心でした。

一年半ぶりの開催で懐かしい人に会いたいという思いとコロナ感染状況が高止まりで、オミクロン株の感染力の強さ、ご自身の健康を考え合わせて、参加を断念された人も少なからずおられるでしょう。

次回の総会・懇親会はコロナ対策で悩まないうで参加できることを期待したい。

◆新型コロナウイルスの感染者が七月に入り全国的に爆発的に急増し、過去最多の感染者数を更新し続けている。BA5への置き換わりが要因で第7波が顕著になっているが政府は当面「行動制限を求めない」という。基本的な感染防止対策の徹底という自己防衛しかないのか…。経口治療薬の承認が待たれる。百年前に世界中で5000万人の死者が出た「スペイン風邪(インフルエンザウイルス)」は足掛け4年かけて集団免疫を獲得して収束したそうです。その後もソ連型や香港型に変異して現在のウイルスに至っています。新型コロナウイルスもインフルエンザウイルスと同じように「共存」していくしか方法はないのかもしれない。

◆資源エネルギー庁は6月末の「電力需給ひっ迫」状況は回避したものの、今夏の電力の安定供給を確保するため7年ぶりに全国で7月1日～9月30日まで節電の協力要請を発した。

熱中症予防に留意し、無理のない範囲での節電を心掛けましょう。

◆七月八日、安倍元首相の襲撃事件が発生。すべてのテレビ画面がこのニュースに切り替わった。心肺停止状態で病院に搬送された安倍元首相は蘇生することはかなわなかった。良くも悪くも影響力をもつ人物であったが、率直に残念である。(MO)